



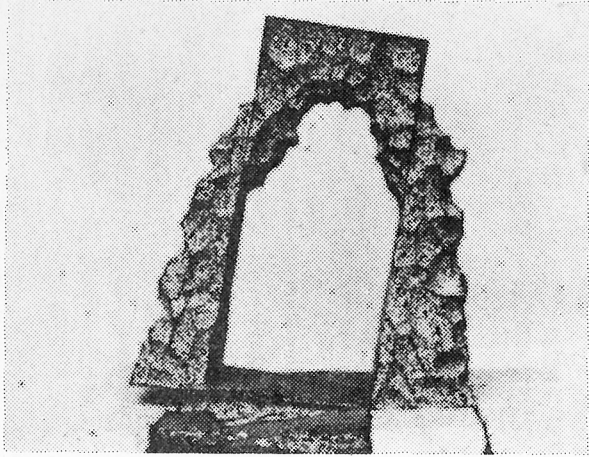
< 5 月 >

丸山映展 画廊「匠」が新装なったの第一回展。その白い壁を背景とした黒い石の彫刻展は、気品のある透徹した雰囲気をもって見ごたえのあるものとなった。

作品は四つの傾向に分かれる。まず、ゆるやかなカーブをもって起立する「肖像のシリーズ」。これはいわば従来の形や量をみせる彫刻とかわらないが、次の「風景のかたちシリーズ」となると棒状の御影石はまるで鉄パイプのように九〇度ないしは一八〇度折り曲げられる形状を示し、質的錯覚を与える。

次の段階の「空白シリーズ」で、台との接触部が弱められ、空中に浮かぶかのような錯覚が意図されている。

柱は、御影の削り放しの白と磨きあげた黒のトーンによ



丸山映「空白のかたち」



稲嶺 成祚

# 気品と透徹した雰囲気

## 丸山 映展